

学校教育目標	ひびきあい かがやく 洋一の子 ～豊かな心をもち、仲間とともに、すすんで未来を拓く子を育てます～ 好奇心をもちながら、主体的に考え、学び続ける子を育てます。(知) 自分と周りの人を大切にし、思いやりの心をもった子を育てます。(徳) 自分の健康に関心をもち、心身ともにたくましく生きる子を育てます。(体) 地域に目を向け、周りの人と協力して行動する子を育てます。(公) 違いを認め、誰とでも分かり合おうとし、共に生きていく子を育てます。(開)				
学校概要	創立 56 周年	学校長 千本 恵子	副校長 水和 大	3 学期制	一般学級: 18 個別支援学級: 6
	児童生徒数: 508 人 主な関係校: 洋光台第一中学校 洋光台第三小学校				

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	洋光台第一中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
＜自分づくりに関する力＞ 自己肯定感 コミュニケーション まちを愛する態度・社会参画	洋光台第一中学校 洋光台第一小学校 洋光台第三小学校	①「洋光台のまち」を大切にする子ども②自尊感情を高めていく子ども③楽しく学習に取り組む子ども ①学校運営協議会をブロック合同で行い、互いの課題や重点研究の情報を共有し、地域で関わり合いながら、地域に貢献する子どもを育成する。②ブロック合同で人権研修を行い、他人の気持ちを考えて行動し、自尊感情を高めていく子どもを育成する。③9年間を見通したカリキュラムの作成や小中合同授業研究会を行い、小中一貫教育カリキュラムの授業を通し、主体的に学習に取り組む子どもを育成する。

中期取組目標	○分かる喜び、できる喜びを感じることでできる授業 ～確かな学力の定着と主体的に問題解決をする力の育成～ ・校内授業研究会を通して、個別最適な学びの実現について検証を進めていきます。 ○一人ひとりの子どもが安心・安全に過ごすことができる教育環境 ～自尊感情、自己有用感を高めるための取組の推進～ ・子どもたちが自ら安心・安全な環境作りについて考え、改善を図っていくことができるようにします。 ○家庭・地域と連携を図りながら、地域の教育力を活かす、開かれた学校 ・地域学校協働本部との連携を強化し、洋光台の良さを教育活動の中でさらに活かしていきます。 ○一人ひとりの子どもの思いを大切にすること人権意識の高い教職員 ・教科分担当など組織力を高め、Y-Pアセスメント等のデータ分析をもとに全職員で児童理解を深め、共通理解のもと日々の教育活動を行います。
--------	--

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①どの子も学習の目的を共有し、課題解決に主体的に取り組めるよう、思考の可視化や学び合いを支える手段としてICTを日常的に活用し、児童が学習方法を選択・工夫しながら学びを進めていく授業づくりを行う。②重点研究のテーマを「主体的に学び、共に学びを深める子ども」とし、児童が安心して学び合える学級風土を基盤に、他者との関わりを通して主体的に問題解決に取り組み、学びを深めていく力を育てる。
担当	学びの推進委員会	
徳	人権教育	①Y-Pアセスメント等を活用し、だれもが安心して豊かに学べる学級風土や授業づくりをすすめる。②人権尊重の意識を高めることが全ての教育活動の基盤であることを意識し、人権目標の取組や関係機関と連携した体験的な授業を実施し、子ども自身が自分を見つめたり、他者とともに大切にしたりすることができるようにする。
担当	安心・安全委員会	
体	健康教育	①体育的行事、WeLoveスポーツカップ等において、自分のめあてをもち、進んで運動しようとする態度を養う。②健康な体づくりには基本的な生活習慣と関わりがあることを知り、自分の生活習慣を振り返って自分に必要なことは何かを見つけようとする態度を養う。③健康に学校生活が送れるように、学校保健委員会のテーマを考え、テーマに沿った取り組みを通してよりよい生活習慣を継続しようとする態度を養う。
担当	安心・安全委員会	
公開	自分づくり教育	①教師が地域とのつながりを意識して他者や地域と積極的に関わる機会を設けることで、自分の役割を意識できるようにする。②自分自身の成長を実感したり、自分や他者のよさに気付いたりしながら、自分や学年のなりたい姿を意識し行動できるようにする。そのために、具体的なめあてを立て、定期的に振り返りの時間をつくる。
担当	特別活動(キャリア教育)	
いじめへの対応・未然防止		①「いじめ＝された子がいやだと思うこと」の理解の定着を図り、未然防止を重点化し、子どもの心情に寄り添った継続的な対応と解決に取り組む。②教育相談の実施や横浜☆dyNaviの活用、いじめ防止対策委員会の運営の工夫等を行い、いじめの芽や兆候を見逃さない学校の対応力を高める。③あいさつ運動等、児童の委員会活動を中心に、児童主体のいじめ防止に向けた取組を行う。
担当	いじめ防止対策委員会	
児童指導・児童理解		①子どもが考えをもち、学校生活をよくしていくために必要な約束を決めたり状況を的確に判断して過ごしたりできるように、児童の実態把握や適切な支援・指導ができる校内体制づくりを推進する。②Y-Pアセスメント等を活用し、児童を多面的に捉えていく視点を獲得し、多様化する教育的ニーズに応じた支援や指導を行う。③思いに寄り添った学習支援の実現に向け、ICT活用や授業の視覚化・構造化、環境調整等を行い、教育内容や校内支援体制の充実を図る。
担当	安心・安全委員会	
特別支援教育		①学びや環境のユニバーサルデザイン化をどの授業にも取り入れ、個を大切に、だれもが参加できる授業づくりを行う。②個別支援級、特別支援教室といった支援ニーズに応じた支援の充実を図り、安心して学び過ごせる校内体制や環境を継続する。③個別的教育支援計画や指導計画を作成し、効果的に活用しながら、保護者とともに児童の成長を支えていくことができるようにする。
担当	特別支援教育委員会	
多文化共生		①外国につながる児童一人ひとりのニーズを適確に把握し、国際教室において「特別的教育課程」を編成し、実施・評価・改善をしながら、様々な角度から日本語能力の向上を支援する。②外国につながる児童の支援のため、国際交流ラウンジやボランティア団体などの関係機関との連携を図る。③子どもの興味を大切にして、外国の言語や習慣、文化への理解を深める機会を設定する。
担当	国際教室担当	
地域学校協働活動		①地域学校協働本部との連携し、地域人材の計画的な活用や出前授業や地域行事への児童の参画を進め、教育活動の質の向上を図る。②学校運営協議会を核として、地域人材の計画的な活用やブロック三校の連携を進め、教育活動の質の向上を図る。③学校HPや「すぐる」を効果的に活用し、学校教育の様子が伝わる工夫を行うことで、学校教育への理解と協働の土台づくりを進める。
担当	情報・つながり委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①内容や目的が明確に伝わる情報共有の仕方や管理の仕方を進め、学年・分掌を越えて取組状況を共有し、安心して相談し合える組織体制を推進する。②教職員の強みやよさを発揮できたり、必要な挑戦ができたりするように、教職員の主体的な成長を組織的に支える体制を強化する。③ICTを活用して年間業務や分掌の進捗状況を可視化して業務の見通しをもち、「業務の見える化」を図り、誰でも取り組める組織体制づくりを推進する。
担当	教務部	